

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	平成23年11月14日
【四半期会計期間】	第58期第2四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）
【会社名】	株式会社ゲオディノス
【英訳名】	GEO DINOS Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 清水 松生
【本店の所在の場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【電話番号】	011-241-3951
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 吉住 実
【最寄りの連絡場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【電話番号】	011-241-3951
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 吉住 実
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第57期 第2四半期 累計期間	第58期 第2四半期 累計期間	第57期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(千円)	4,283,707	4,149,341	8,663,734
経常利益又は経常損失() (千円)	15,298	3,993	160,671
当期純利益又は四半期純損失() (千円)	27,306	28,653	43,361
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金(千円)	948,775	948,775	948,775
発行済株式総数(株)	4,303,500	4,303,500	4,303,500
純資産額(千円)	2,359,344	2,417,331	2,426,533
総資産額(千円)	10,361,298	10,768,090	10,246,168
1株当たり当期純利益金額又は1株 当たり四半期純損失金額() (円)	6.37	6.73	10.13
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
1株当たり配当額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	22.8	22.4	23.7
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	459,387	160,889	1,158,895
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	128,522	197,683	268,068
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	149,169	463,895	342,230
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	699,093	1,194,757	767,655

回次	第57期 第2四半期 会計期間	第58期 第2四半期 会計期間
会計期間	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	13.11	7.73

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「持分法を適用した場合の投資利益」は、関連会社がないため記載しておりません。
4. 第57期及び第58期第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
5. 第57期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。なお、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期財務諸表 注記事項(セグメント情報等)セグメント情報」の「 . 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響等による厳しい状況から、サプライチェーンの立て直しが進むなど一部に持ち直しの動きがみられましたが、個人消費は依然として、厳しい状況で推移しました。

このような経済状況のもとで、フィットネス運営部において、ゲオフィットネス国立店（平成23年5月グランドオープン）がオープンし、堅調に推移しましたが、東日本大震災及びその後の関東地区での計画停電や物流停滞の影響を受けたこと、GAME運営部におけるゲーム機種及びプライズ景品のヒットが少なかったこと、ボウリング運営部において、前半自粛ムードによる団体予約のキャンセルが相次いだこと、ディノス施設運営部のシネマにおいて前期よりヒット作品が少なかったことなどにより、当第2四半期累計期間の売上高は41億49百万円（前年同四半期比3.1%減）となりました。利益においては、省エネを目的とした設備投資により光熱費が前期より減少しましたが、第2四半期以降の売上の減少が影響したことにより、営業利益は75百万円（前年同四半期比8.1%減）、経常損失は3百万円（前年同四半期は経常利益15百万円）、四半期純損失は28百万円（前年同四半期は四半期純損失27百万円）となりました。

当第2四半期累計期間における営業実績をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	前年同四半期比(%)
GAME運営部(千円)	1,738,848	4.9
フィットネス運営部(千円)	1,035,028	4.8
ボウリング運営部(千円)	574,457	1.4
カフェ運営部(千円)	343,462	9.3
ディノス施設運営部(千円)	457,543	9.7
(シネマ)(千円)	(357,318)	(16.1)
(その他)(千円)	(100,225)	(23.8)
合計(千円)	4,149,341	3.1

(注)1.上記の金額には消費税等は含まれておりません。

- 平成23年6月1日付の組織変更に伴い、ディノス事業部のボウリング事業をボウリング運営部に、同じくシネマ事業及び土地・建物の賃貸収入等その他をディノス施設運営部に区分及び名称を変更しております。また、ディノス事業部の実質的にボウリング場の付帯施設的位置づけであったFA事業1店舗を除きボウリング運営部に変更しており、独立店舗的性格の強い1店舗をカフェ運営部に変更しております。前年同四半期比については、当該組織変更を反映した前年同四半期の数値を用いております。
- ディノス施設運営部の(その他)は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。
- ディノス施設運営部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

(GAME運営部)

GAME運営部につきましては、ゲオパークじょいくるーず店（平成23年4月）の新規オープンがありました。ゲーム機種及びプライズ機における景品のヒットが少なかったことなどにより、売上高は17億38百万円（前年同四半期比4.9%減）となりました。

(フィットネス運営部)

フィットネス運営部につきましては、ゲオフィットネス国立（平成23年5月グランドオープン）がオープンし、店舗数が増えたこと、加圧トレーニングマシンの導入をしたことなどにより、売上高は10億35百万円（同4.8%増）となりました。

(ボウリング運営部)

ボウリング運営部につきましては、前半東日本大震災の発生に伴う自粛等の影響などにより、多くの予約団体がキャンセルになったこと、後半キャンセルになった予約団体が戻ってはきたものの、前半の自粛等による落ち込みが大きかったことなどにより、売上高は5億74百万円(同1.4%減)となりました。

(カフェ運営部)

カフェ運営部につきましては、1店舗が閉店(平成22年11月)したこと、業界全体の規制強化の動きの影響などにより、売上高は3億43百万円(同9.3%減)となりました。

(ディノス施設運営部)

ディノス施設運営部につきましては、その他において、当期及び前期にディノス札幌白石など3施設において一部スペースをカラオケ店もしくは事務所等として他社に賃貸したことにより、不動産賃貸収入が増加しましたが、シネマにおいて、ヒット作品が少なかったこと、ディノスシネマズ札幌白石を閉館(平成23年5月)したことなどにより、売上高は4億57百万円(同9.7%減)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ4億27百万円増加し、11億94百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1億60百万円(前年同四半期は4億59百万円の増加)となりました。これは主に、未払消費税等の減少額が77百万円及び利息の支払額が66百万円並びにその他の負債の減少額が41百万円ありましたが、非資金費用である減価償却費が3億63百万円あったことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1億97百万円(前年同四半期は1億28百万円の減少)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が2億3百万円あったことなどによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、4億63百万円(前年同四半期は1億49百万円の増加)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が6億30百万円及び長期未払金の返済による支出が1億67百万円並びにリース債務の返済による支出が96百万円ありましたが、長期借入れによる収入が11億50百万円及び社債の発行による収入が2億93百万円あったことなどによるものであります。

(3) 財政状態の分析

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期会計期間末の総資産は107億68百万円となり、前事業年度末に比べ5億21百万円増加しました。これは主に、現金及び預金等流動資産の増加(前期末比4億71百万円増)があったことによるものであります。

負債については、83億50百万円となり、前事業年度末に比べ5億31百万円増加しました。これは主に、長期借入金等固定負債の増加(同5億83百万円増)があったことによるものであります。

純資産については、24億17百万円となり、前事業年度末に比べ9百万円減少しました。これは主に、利益剰余金の減少(同28百万円減)があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,000,000
計	14,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,303,500	4,303,500	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,303,500	4,303,500	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	-	4,303,500	-	948,775	-	1,128,995

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ゲオ	愛知県春日井市如意申町5丁目11-3	3,100	72.03
株式会社北洋銀行	札幌市中央区大通西3丁目7	212	4.94
株式会社セガ	東京都大田区羽田1丁目2-12	129	2.99
ゲオディノス従業員持株会	札幌市中央区南3条西1丁目8	63	1.47
株式会社北星コーポレーション	札幌市中央区南4条西3丁目9	50	1.16
北海道コカ・コーラボトリング株式会社	札幌市清田区清田一条1丁目2-1	40	0.92
中道リース株式会社	札幌市中央区北1条東3丁目3番地	37	0.85
西山一彦	三重県桑名市	31	0.73
セコム損害保険株式会社	東京都千代田区平河町2丁目6-2	20	0.46
オリックス株式会社	東京都港区浜松町2丁目4-1	20	0.46
株式会社ムラオカ食品	札幌市中央区南8条西1丁目13-80	20	0.46
計	-	3,724	86.53

(注) 1. 上記のほか、自己株式が45千株あります。

2. 株式会社ゲオは、平成23年11月1日に株式会社ゲオホールディングスに商号変更しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 45,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,258,000	42,580	-
単元未満株式	普通株式 500	-	-
発行済株式総数	4,303,500	-	-
総株主の議決権	-	42,580	-

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ゲオディノス	札幌市中央区南3条 西1丁目8番地	45,000	-	45,000	1.05
計	-	45,000	-	45,000	1.05

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について瑞輝監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	767,655	1,194,757
売掛金	110,936	106,534
商品及び製品	28,173	31,797
原材料及び貯蔵品	73,347	74,741
その他	115,766	159,685
貸倒引当金	635	720
流動資産合計	1,095,244	1,566,797
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,623,455	3,564,419
アミューズメント機器(純額)	501,667	508,054
土地	2,699,860	2,699,860
その他(純額)	706,466	794,826
有形固定資産合計	7,531,449	7,567,161
無形固定資産	31,038	29,209
投資その他の資産		
差入保証金	1,205,942	1,208,587
その他	369,613	378,429
投資その他の資産合計	1,575,556	1,587,016
固定資産合計	9,138,045	9,183,388
繰延資産	12,879	17,904
資産合計	10,246,168	10,768,090
負債の部		
流動負債		
買掛金	168,420	150,568
1年内償還予定の社債	155,000	188,000
1年内返済予定の長期借入金	1,136,763	1,215,359
1年内返済予定の長期未払金	324,943	345,889
未払法人税等	25,175	24,522
賞与引当金	38,994	29,512
ポイント引当金	4,300	3,700
店舗閉鎖損失引当金	3,804	1,100
その他	919,091	765,242
流動負債合計	2,776,492	2,723,894
固定負債		
社債	530,000	712,000
長期借入金	2,665,823	3,106,702
長期未払金	1,022,824	991,804
退職給付引当金	169,261	172,457
資産除去債務	112,698	113,938
その他	542,536	529,962
固定負債合計	5,043,143	5,626,864
負債合計	7,819,635	8,350,758

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	948,775	948,775
資本剰余金	1,128,995	1,128,995
利益剰余金	357,745	329,091
自己株式	20,983	20,987
株主資本合計	2,414,532	2,385,874
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10,228	28,267
評価・換算差額等合計	10,228	28,267
新株予約権	1,773	3,188
純資産合計	2,426,533	2,417,331
負債純資産合計	10,246,168	10,768,090

(2) 【四半期損益計算書】
【第 2 四半期累計期間】

(単位 : 千円)

	前第 2 四半期累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年 9 月30日)	当第 2 四半期累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)
売上高	4,283,707	4,149,341
売上原価	956,018	883,370
売上総利益	3,327,689	3,265,970
販売費及び一般管理費		
給料	778,632	795,488
賞与引当金繰入額	21,943	29,512
退職給付費用	13,052	10,980
水道光熱費	347,061	331,450
租税公課	59,315	41,525
地代家賃	622,410	631,969
減価償却費	361,692	353,487
修繕維持費	210,686	206,966
その他	830,956	789,270
販売費及び一般管理費合計	3,245,751	3,190,651
営業利益	81,937	75,318
営業外収益		
受取利息	1,967	1,966
受取配当金	1,100	880
アミューズメント機器売却益	1,111	2,190
協賛金収入	3,504	5,009
その他	4,828	5,048
営業外収益合計	12,513	15,095
営業外費用		
支払利息	69,866	65,079
アミューズメント機器処分損	5,525	4,878
休止固定資産関係費用	-	18,545
その他	3,760	5,904
営業外費用合計	79,152	94,408
経常利益又は経常損失 ()	15,298	3,993
特別利益		
固定資産売却益	27	-
ポイント引当金戻入益	450	-
特別利益合計	477	-
特別損失		
固定資産売却損	3,211	-
固定資産除却損	2,008	1,883
店舗閉鎖損失引当金繰入額	11,000	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	20,454	-
リース解約損	741	-
特別損失合計	37,415	1,883
税引前四半期純損失 ()	21,639	5,877
法人税、住民税及び事業税	15,907	16,136
法人税等調整額	10,240	6,638
法人税等合計	5,667	22,775
四半期純損失 ()	27,306	28,653

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失()	21,639	5,877
減価償却費	372,145	363,290
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	20,454	-
株式報酬費用	292	1,415
貸倒引当金の増減額(は減少)	45	429
賞与引当金の増減額(は減少)	15,581	9,482
退職給付引当金の増減額(は減少)	8,486	3,196
ポイント引当金の増減額(は減少)	450	600
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)	11,000	2,704
受取利息及び受取配当金	3,068	2,847
支払利息	69,866	65,079
有形固定資産除却損	7,533	6,721
有形固定資産売却損益(は益)	2,072	2,149
売上債権の増減額(は増加)	38,756	4,056
たな卸資産の増減額(は増加)	3,366	5,018
未収入金の増減額(は増加)	6,512	1,218
その他の資産の増減額(は増加)	38,631	27,850
仕入債務の増減額(は減少)	17,022	17,851
未払消費税等の増減額(は減少)	50,655	77,000
未払金及び未払費用の増減額(は減少)	87,580	8,421
その他の負債の増減額(は減少)	61,616	41,348
小計	545,099	241,820
利息及び配当金の受取額	1,328	1,029
利息の支払額	70,991	66,248
法人税等の支払額	16,049	15,711
営業活動によるキャッシュ・フロー	459,387	160,889
投資活動によるキャッシュ・フロー		
長期貸付金の回収による収入	10,292	9,511
出資金の払込による支出	-	900
投資有価証券の取得による支出	1,652	1,260
有形固定資産の取得による支出	195,705	203,375
有形固定資産の売却による収入	34,784	3,287
有形固定資産の除却による支出	-	939
無形固定資産の取得による支出	248	1,357
差入保証金の差入による支出	16,458	5,768
差入保証金の回収による収入	40,464	3,118
投資活動によるキャッシュ・フロー	128,522	197,683

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	300,000	600,000
短期借入金の返済による支出	300,000	600,000
長期借入れによる収入	900,000	1,150,000
長期借入金の返済による支出	790,766	630,525
社債の発行による収入	292,886	293,357
社債の償還による支出	32,500	85,000
長期未払金の返済による支出	160,823	167,579
リース債務の返済による支出	59,610	96,350
配当金の支払額	10	2
その他	7	3
財務活動によるキャッシュ・フロー	149,169	463,895
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	480,033	427,101
現金及び現金同等物の期首残高	219,059	767,655
現金及び現金同等物の四半期末残高	699,093	1,194,757

【追加情報】

当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在)
現金及び預金勘定 <u>699,093千円</u>	現金及び預金勘定 <u>1,194,757千円</u>
現金及び現金同等物 <u>699,093千円</u>	現金及び現金同等物 <u>1,194,757千円</u>

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期損 益計算書 計上額 (注)3
	ディノス 事業部	GAME 事業部	フィット ネス事業部	カフェ 事業部	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	1,025,601	1,827,928	987,655	361,574	4,202,759	80,947	4,283,707	-	4,283,707
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	1,025,601	1,827,928	987,655	361,574	4,202,759	80,947	4,283,707	-	4,283,707
セグメント利益 又は損失()	61,829	226,293	53,052	44,815	262,331	46,049	308,381	226,443	81,937

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 226,443千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上 額(注)2
	GAME 運営部	フィットネ ス運営部	ボウリング 運営部	カフェ 運営部	ディノス 施設運営部	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,738,848	1,035,028	574,457	343,462	457,543	4,149,341	-	4,149,341
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	1,738,848	1,035,028	574,457	343,462	457,543	4,149,341	-	4,149,341
セグメント利益又は 損失()	249,264	39,164	19,072	32,170	35,606	265,920	190,601	75,318

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 190,601千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、従来「ディノス事業部」・「GAME事業部」・「フィットネス事業部」・「カフェ事業部」の4つを報告セグメントとしておりましたが、前事業年度にて、「その他」に含まれる不動産事業等の重要性が増加したため、「ディノス事業部」・「GAME事業部」・「フィットネス事業部」・「カフェ事業部」・「その他事業」の5つを報告セグメントといたしました。また、平成23年6月1日付の収益力強化を目的とした組織変更に伴い、「GAME運営部」・「フィットネス運営部」・「ボウリング運営部」・「カフェ運営部」・「ディノス施設運営部」の5つの報告セグメントに変更しております。

当該組織変更を反映した前第2四半期累計期間のセグメント情報は、以下のとおりであります。

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上 額(注)2
	GAME 運営部	フィットネ ス運営部	ボウリング 運営部	カフェ 運営部	ディノス 施設運営部	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,827,928	987,655	582,707	378,650	506,766	4,283,707	-	4,283,707
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	1,827,928	987,655	582,707	378,650	506,766	4,283,707	-	4,283,707
セグメント利益又は 損失()	254,786	53,052	34,473	34,990	7,050	315,405	233,468	81,937

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 233,468千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額	6円37銭	6円73銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	27,306	28,653
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	27,306	28,653
普通株式の期中平均株式数(株)	4,283,441	4,258,409

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月11日

株式会社ゲオディノス
取締役会 御中

瑞輝監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 大浦 崇志 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 瀬戸口 明慶 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ゲオディノスの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第58期事業年度の第2四半期会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ゲオディノスの平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。